

第4問 次に挙げるのは、六朝時代の詩人謝靈運の五言詩である。名門貴族の出身でありながら、都で志を果たせなかった彼は、疲れた心身を癒やすため故郷に帰り、自分が暮らす住居を建てた。これはその住居の様子を詠んだ詩である。これを読んで、後の問い(問1～6)に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。(配点 50)

樵(注1) 隱(ア) 俱(注2) 在(注2) 山(注2) 由(注2) 来(注2) 事(注2) 不(注2) 同(注2)

不(注3) 同(注3) 非(注3) 一(注3) 事(注3) 養(注4) 痾(注4) 亦(注4) 園(注4) 中(注4)

園(注5) 中(注5) 屏(注5) 氛(注5) 雜(注5) 清(注6) 曠(注6) 招(注6) 遠(注6) 風(注6)

B 卜(注7) 室(注7) 倚(注7) 北(注7) 阜(注7) 啓(注7) 扉(注7) 面(注7) 南(注7) 江(注7)

激(注8) 澗(注8) 代(注8) 汲(注8) 井(注8) 挿(注8) 槿(注8) 当(注8) 列(注8) 墉(注8)

群(注9) 木(注9) 既(注9) 羅(注9) 戸(注9) 衆(注9) 山(注9) 亦(注9) 對(注9) **C**

D 靡(注10) 迤(注10) 趨(注10) 下(注10) 田(注10) 迢(注11) 遞(注11) 瞰(注11) 高(注11) 峰(注11)

(イ) 寡(注12) 欲(注12) 不(注12) 期(注12) 勞(注12) 即(注13) 事(注13) 罕(注14) 人(注14) 功(注14)

唯(注15) 開(注15) 蔣(注15) 生(注15) 徑(注15) 永(注16) 懷(注16) 求(注16) 羊(注16) 蹤(注16)

E 賞(注17) 心(注17) 不(注17) 可(注17) 忘(注17) 妙(注18) 善(注18) 冀(注18) 能(注18) 同(注18)

『文選』(巻1)

(注) 1 樵隱——木こりと隠者。

2 由来——理由。

3 養痾——都の生活で疲れた心身を癒やす。

4 園中——庭園のある住居。

5 氛雑——俗世のわずらわしさ。

6 清曠——清らかで広々とした空間。

7 卜室——土地の吉凶を占って住居を建てる場所を決めること。

8 靡迤——うねうねと連なり続くさま。

9 迢遞——はるか遠いさま。

10 罕人功——人の手をかけ過ぎない。

11 蔣生——漢の蔣詡のこと。自宅の庭に小道を作って友人たちを招いた。

12 求羊——求仲と羊仲のこと。二人は蔣詡の親友であった。

13 賞心——美しい風景をめぐる心。

14 妙善——この上ない幸福。

問1 波線部〔ア〕「俱」・〔イ〕「寡」のここでの読み方として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 29 ・ 30。

(2101—38)

| | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">(イ) 「寡」</p> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; margin: 0 auto; padding: 2px;">30</div> <p style="text-align: center;">⑤ ④ ③ ② ①</p> <p style="text-align: center;">あづけて がへんじて すくなくして つりて いつはりて</p> | <p style="text-align: center;">(ア) 「俱」</p> <div style="border: 1px solid black; width: 30px; margin: 0 auto; padding: 2px;">29</div> <p style="text-align: center;">⑤ ④ ③ ② ①</p> <p style="text-align: center;">ともた そぞろに すでに つぶさに たまたま</p> |
|--|---|

— 38 —

問2 傍線部 A「由来事不同、不同非一事」について、(a)返り点の付け方と、(b)書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

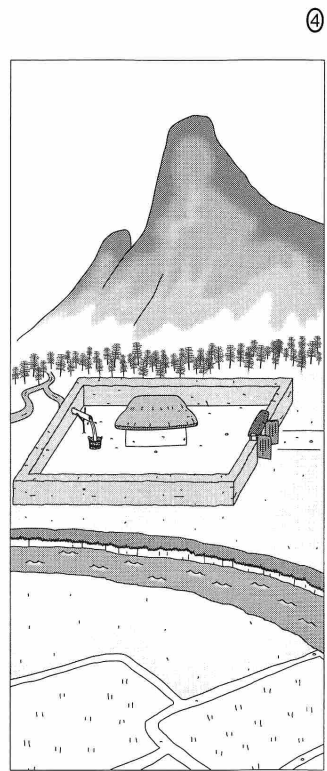
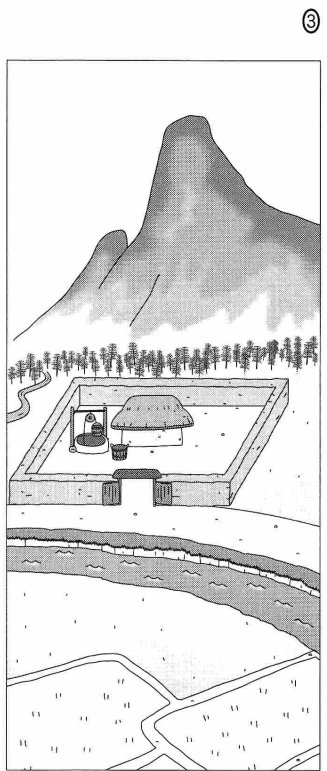
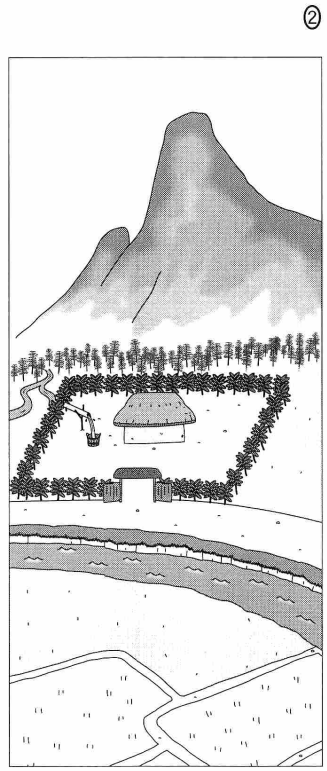
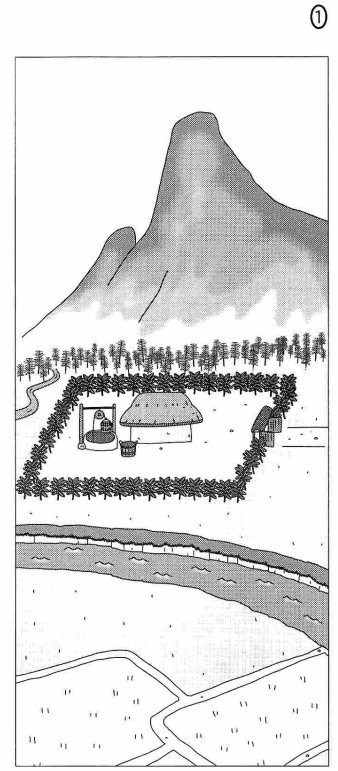
(2101—39)

- | | | | | |
|---|-----|-------------|-----|--------------------------|
| ① | (a) | 由来事不同、不同非一事 | (b) | 由来事は同じからず、一事を非とするを同じうせず |
| ② | (a) | 由来事不同、不同非一事 | (b) | 由来事は同じからず、同じからざるは一事に非ず |
| ③ | (a) | 由来事不同、不同非一事 | (b) | 由来事は同じうせず、一に非ざる事を同じうせず |
| ④ | (a) | 由来事不同、不同非一事 | (b) | 由来事は同じうせず、非を同じうせずんば事を一にす |
| ⑤ | (a) | 由来事不同、不同非一事 | (b) | 由来事は同じうせず、非とするは一事に同じからず |

— 39 —

問3 傍線部B「下室倚北阜、啓扉面南、江、激澗、代汲井、挿槿、当列塙」を模式的に示したとき、住居の設備と周辺の景物の配置として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。解答番号は

32。



問4 空欄

C

に入る文字として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

33

。

- ① 窓
② 空
③ 虹
④ 門
⑤ 月

問5

傍線部D「靡進^び趨^む下田^{した}、迢^{てう}通^{つう}瞰^く高峰^{こうほう}」の表現に関する説明として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

34

。

- ① 「靡進^び」という音の響きの近い語の連続が、「下田^{した}に趨^むく」という動作とつながることによって、山のふもとの田園風景がどこまでも続いていることが強調されている。
- ② 「靡進^び」として「続いて」いる田園風景と「迢^{てう}通^{つう}として」はるか遠くに見える山々^{さんざん}とが対句として構成されることによって、住居の周辺が俗世を離れた清らかな場所であることが表現されている。
- ③ 「迢^{てう}通^{つう}」という音の響きの近い語の連続が、「高峰^{こうほう}を瞰^くみ」という動作とつながることによって、山々^{さんざん}がはるか遠くのすがすがしい存在であることが強調されている。
- ④ 山のふもとに広がる「下田^{した}」とはるか遠くの「高峰^{こうほう}」とが対句として構成されることによって、この詩の風景が、垂直方向だけでなく水平方向にものびやかに表現されている。
- ⑤ 「趨^むく」と「瞰^く」という二つの動詞が対句として構成されることによって、田畑を耕作する世俗のいなみが、作者にとって高い山々をながめやるように遠いものとなったことが強調されている。

問6

傍線部E「賞、心不_レ可_レ忘、妙善冀能回」とあるが、作者がこの詩の結びに込めた心情はどのようなものか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

35。

(2101—44)

- ① 美しい風景も、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめると、さまざまな見方を教わることがあるので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか遠慮なく何でも言ってください。
- ② 美しい風景は、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめても、その評価は決して一致しないので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか私のことはそっとしておいてください。
- ③ 美しい風景は、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめてこそ、その苦心が報われるもので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか我が家のことを皆に伝えてください。
- ④ 美しい風景は、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめてこそ、その楽しさがしみみと味わえるものなので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか我が家においでください。
- ⑤ 美しい風景も、漢の蔣生と求仲・羊仲のように、親しい仲間と一緒にながめないと、永遠に称賛されることはないので、立派な人格者である我が友人たちよ、どうか我が家を時々思い出してください。